

地域の特産物の栽培から 6 次産業化に発展

(有限会社西田農産)

<法人の概要>

所在地：鹿児島県西之表市

設立：平成 15 年 4 月

資本金：300 万円 売上高：49,000 万円（令和 2 年）

役員：4 名（うち農作業従事 4 名）

経営面積：26.2ha

作付作物：甘藷、タマネギ、ジャガイモ



種子島特産の安納いも栽培



さつまいもと組み合わせたばれいしょ栽培

<営農を開始するまでの状況>

○農業参入の動機・経緯

平成 14 年度をピークに建設業の公共事業が減少したことから、従業員の雇用確保のため、農地所有適格法人を設立し農業に参入した。もともと社長自身が農家経験を持ち、従業員も兼業農家が多く栽培上のノウハウに精通していたため、栽培技術面ではそれほど苦労はなかった。焼酎用さつまいもの需要拡大や地域特産物である安納いもが注目されたことを受けて順調に規模を拡大しており、現在では安納いもの付加価値を高めるための加工施設の整備や販路の確保に取り組んでいる。

○農地の確保方法

自作地はごく一部で、大部分は高齢農家等からの借地である。1 / 3 は耕作放棄地であったが、建設業の機動力生かし再生して利用している。

<特徴的な取組>

○6次産業化

地元の特産物である安納いもを中心に加工品の開発に努め、付加価値を付けた製品を手がけている。

・青果用として出荷する安納いもはキュアリング室と石蔵貯蔵庫で熟成させ糖度 13 度以上を確保している。

・種子島産の炭を利用した炭火焼きいも釜と冷凍庫を整備し、冷凍焼きいもとして製品化。他にペースト等の製造にも取り組み好評を得ている。

・大手製菓会社と提携し、安納いものみを使い、調味料を全く使用しないさつまいもチップを製品化した。

<今後の農業経営の展開方向>

・農地の利用率向上と従業員の長期雇用体系を確立するため、さつまいもの裏作としてタマネギ、じゃがいもの生産にチャレンジしている。

・焼きペーストの需要が伸びてきている。シャーベットにも取り組み、今後も収益性の高い加工農産物の製造を目指す。

・有機質肥料による土作りにこだわり、高品質の農産物生産に努める。

<今後法人化を進めようとしている方へのアドバイス>

・農業開始から4～5年は土作りが必要となり、技術・経営の蓄積期間では収益が少ないため、農業部門をカバーするために本体事業に収益面で余裕がある内に始める必要がある。

・農業は地域・生産者との協調が重要である。土地の賃借や雇用に関し、地元の意向を尊重することが円滑な農業経営につながると考えている。



原料加工作業等で多くの雇用を創出



自社で炭火焼きいも釜を整備した加工施設の一部